

あの日あのとき ⑥

このコーナーは、東日本大震災が発生した当時の様子などを皆さんにお聞きして連載していくコーナーです。

今回は、津波に流されながらも九死に一生を得た村上佳逸さんに話を聞きました。



村上 佳逸さん
(㊟磯の沢)

2階に上がれば何とかなるはずだったが…

あの日、私は十日町にあった理髪店でお客さんの散髪をしている最中でした。ちょうど8割ほど仕上がったときに、あの巨大地震が発生したのです。すぐにお客さんを帰し、両親を子どもたちがいる保育所へ向かわせました。私は、大切な散髪道具などを2階に移動させるのに精一杯でした。津波災害の知識は、チリ地震津波しかなかったため、自宅の2階に上がれば何とかなるはずでした。突然、大きな音とともに3階建ての隣家が我が家に倒れてきたため、私の体は一瞬のうちに壁と柱などに押しつぶされて身動きできなくなりました。そして、抜け出すためにもがいている最中、津波が襲ってきたのです。「これが俺の最後か…」自らの死を覚悟した瞬間です。

渦を巻く津波、「もう一度みんなに逢いたい」

津波で流されたことにより、体の自由を得ることはできました。ただし、津波のなか右も左も分からないほどに渦を巻く津波は、激流となり、流されまいと必死に抵抗する私の体力を消耗させるだけでし

た。それでも、愛する家族のため生存したい一心で無我夢中でした。「もう一度みんなに逢いたい」という執念が奇跡を与えてくれたように思います。

命の恩人

水中に潜り、浮かびそうな畳を引き上げて漂流を続けました。そこには想像を超えた惨たらしい光景がひろがり、大好きだった海に対し怒りすら覚えました。必死の思いで水からはいあがったものの、体温が下がり、全身が傷だらけの状態で動くこともできませんでした。その時、家族を捜し歩いている方々から、「大丈夫か」と声をかけられ、身に付けていた防寒着と長靴を譲り受けたことで、何とか救護拠点のベイサイドアリーナにたどり着くことができました。佐藤順一さん、千葉俊美さん本当にありがとうございました。

家族の司令塔として…

これまで、様々な方々に長期に渡って支援をしていただき本当に感謝しています。おかげさまで、離ればなれとなっていた家族とも再会し、全員が仮設住宅で暮らせる目途もつきました。仮設店舗の理髪店も順調に営業をしています。これからは、この震災で得た経験を活かし、家族を守るため、司令塔として頑張っ参ります。

編集後記

▶夕方に歯医者の子が入っている訳でもないし、あの秘密が嫁さんにバレそうな訳でもない。それなのに気持ちが憂鬱なのは、皆さんにお別れを言う事ができなかったからです。1月の人事異動により、約4年間に渡る広報担当のユニホームを脱ぐことになりました。よって、今月号は新しい担当者が作った広報紙であり、無理を言ってこの場を設けていただいたところです。取材先では、皆さんに大変お世話になり、楽しく仕事をすることができました。本当にありがとうございました。これからも、広報みなみさんりくをご愛読くださいますよう、よろしく願いいたします。 前担当 加藤

▶この度、前任者からユニホームを引き継ぐこととなりました。家族ネタは継承できませんが、広報を通じて、南三陸の明るい話題を皆さんにお伝えできればと思います。これから様々な取材活動でお世話になります。どうぞよろしく願います。 担当 大森

わが家のアイドル



小山 心陽ちゃん

(㊟坂本)

平成23年5月8日生まれ

パパ 雅彦さん

ママ 園美さん

おうちの方から一言

ニコニコ笑顔の心陽に、みんな癒されています♥

これからも、すくすく元気に育ってね♥